

第1回とっとり型の保育のあり方研究会（概要）

1 日時

平成28年5月23日（月） 10:00～12:00

2 場所

鳥取県立図書館 小研修室

3 出席者

別添のとおり

4 主な内容等

（1）各議題の説明及び報告について

議事1「スケジュール・今後の開催日程」、議事2「とっとり型の保育のあり方研究会運営要綱の制定」及び議事4「鳥取県の保育に係る現状と施策」について事務局で説明。

議事3「会長及び副会長の選出」については、南委員を会長、武田委員を副会長とすることで了承。

（2）意見交換

鷹取委員

- ・子ども・子育て支援新制度によって、保育所や認定こども園などは補助金が増えているイメージがある。
- ・私学助成を受ける従来の私立幼稚園と新制度へ移行した施設との補助に格差が生じており、私学助成の増額をお願いしたい。
- ・県では家庭での保育に対する支援を考えていきたいとのことだが是非行ってほしい。
- ・幼児教育は満3歳からであり、0～2歳は集団教育に馴染まないと文部科学省も言っている。幼稚園で2歳児を受け入れているところもあるが、あくまでも子育て支援の一環である。
- ・保護者の中には、3歳まで家庭で保育したいという保護者もいると思う。ただ、経済的な理由でできず、やむを得ず働いている方もいるのではないか。
- ・そのような観点から、私立幼稚園に対する私学助成の補助の増額と家庭で保育する保護者への支援の実施をお願いしたい。
- ・少子化対策の一環として幼児教育にも力を入れていただきたい。

直島委員

- ・全国的に待機児童は0～2歳が多い傾向にあるが鳥取県での待機児童の年齢構成を確認させてほしい。
- ⇒県の待機児童の状況でも0～2歳であり、3歳以上はいない。
- ・日本は世界的に見て教育にかかる予算が少ないが、鳥取県における幼児教育にかかる予算はどれほどのものか確認させてほしい。（何%を占めるか。）
- ⇒確認させてほしい。

- ・保育の経済的負担が論点になると思う。社会の構造の変化、家族の多様化などで一人親家庭が増えていると思い（議論する上で）、避けて通れない。
 - ・（第1子と同時在園の第2子保育料無償化については）年収360万円で線引きしているが、世帯の構成人員によって経済的負担の状況が異なると思う。
- ⇒一人親に対する国の支援措置として、第1子半額、第2子以降無料とされている。
- ・世帯の構成の割合をどれくらい把握されているか気になるところ。
 - ・一人親の保護者と話をしていると子どもとふれあう時間がないという声を聞く。
 - ・就学前の子どもと親とのふれあいの時間はとても大切なものだと思う。
 - ・経済的な話だけでなく、親子の交流の時間などについても議論していきたいと思う。

村島委員

- ・新制度で補助が増えたように言われるが、公定価格内で運営しなければならず、乳児は3：1の配置基準であっても実際には上乗せして職員を配置をして保育を行っているところがほとんどだと思う。
- ・現在の新制度の公定価格で豊かな運営ができるというものではない。
- ・新制度へ移行したことにより処遇の改善が図れるということで、県独自の補助がなくなり、市町村の独自補助も廃止の動きが出ている。
- ・実際には運営費が増えたのか減ったのか疑問に思うところもあり、1年経ってどのような影響があったのか検証をお願いしたい。
- ・10月以降の待機児童の件については、入所者のライフサイクル（産休、育休明けなど）によって途中入所があり、4月1日時点での保育士の配置では10月1日には保育士が不足し、課題となっている。
- ・保育士を探しても見つからず、待機児童が発生するという状況となる。
- ・県でも施策を進めてもらっているところであり、良い方向に進むことを期待している。

大西委員

- ・森のようちえんは、園舎をもっていないという説明があつたが、子どもの安全、安心を図るためにどのようなことを行っているか。
- ⇒大雨や大雪などで避難できる拠点施設や安全対策マニュアルを設けることを義務付けており、県で実施する安全対策に関する講習会についても参加するようにしている。

大谷委員

- ・米子市では、待機児童の対策として施設を増やすなど受入人数を増やすようにしているところがあるが、施設が増えることによって、そのことが呼び水となり、入所の申込みが増えている状況にある。
- ・施設を増やせば、増やすほど財源も必要となる。米子市としては、保育の受皿確保の方に力を入れていきたいと考えている。
- ・米子市の子ども・子育て会議で家庭での保育に対する支援について議論した際には、女性の社会進出等に逆行することになるという意見も出ており、まずは、米子市としては施設を増やすなどして待機児童を解消することを進める。

竹歳委員

- ・施設面で定員に余裕があっても保育士が確保できない状況にある。
- ・家庭で保育したいというニーズに対応した支援を行ってもらえると待機児童の解消にもつながるものではないかと思う。
- ・保育料については、市町村は国の基準額よりも下げており、さらに保育料軽減もしているところであるが、サービスの値下げ合戦的なところもあり、支援として成り立っているのか、着地点などこの会議で議論できたらと思う。

宮地委員

- ・保育料の無償化や子育て支援について、出生数の増加などが最終的な目標とするのであれば、保育所や幼稚園を支援するだけでなく、家庭で保育する者に対する支援も必要ではないか。
- ⇒県民のアンケート等を基に設定した目標とする合計特殊出生率は1.95であるが、現実の1.60と差があり、その大きな要素はアンケートから経済的負担があることから保育料軽減を行っているところである。
- 他にも正規雇用を増やす取組や出会いの場を提供する取組みなども行っている。
- 少子化対策としては、経済的負担が大きなどころであることから保育料軽減を先行して行ってきたところ。
- また、非正規職員やパート職員で育休制度が職場にない方もいる。
- 家庭で保育を行っている方への支援は、実際にほとんどない状況であるため、課題だと思っており、このことについて議論していきたいと思う。

岩本委員

- ・待機児童をなくすことや子育て世帯に対する給付の制度の話だけでなく、家庭で保育することについても重点を置かれていることに安心した。
- ・女性が輝ける場は、社会進出だけでなく、夫を支えることも輝ける場だと思う。
- ・次の世代が子どもを産みたいと思うためにはどのようなことをすればいいのか。
- ・まずは、子どもは家庭で育てるものだという前提で議論することが大切。

武田委員

- ・自然に学び、遊びきれ、とりっこ事業については、平成27年度に補助の減額により実施施設が減少したとあるが、年度によって減った活動と増えた活動もあり、その理由ややる価値を十分に理解しているが実施できないなどの理由を今後、具体的に見ていく必要があるのではないかと思う。

(3) 主な論点

宮地委員

- ・野外保育は、保育料無償化などとは違って、保育内容が重要であり、ヒアリングがキーとなってくるものと思う。
- ・幼稚園などの保育内容と異なる野外保育（森のようちえん）では小学校のとの接続をどのよう

にやっているか確認したい。

- ・また、森のようちえんでの保育内容で既存のおもちゃやメディア機器とどのように距離をとっているのか、例えば、iPadに図鑑を入れて森で昆虫について学ぶなど、離すのではなく、活用するなどのやり方もあると思うので、その部分について確認したい。

直島委員

- ・保育料無償化は大事な論点かと思うが、どこまで平等にやるか、偏ってやるか議論していかないと値下げ合戦的なものとなる。これは、論点につながると思う。
- ・自然とのふれあいが減っていることについては、そのやり玉としてメディア機器が上げられているが、それだけではなく、家庭環境が苦しく、そのような時間が作れないなど、家庭環境の影響も野外保育が必要となっている背景としてあるのではないかと考えており、このことについては、論点を接続させて考えていきたい。

(4) ヒアリングについて

村島委員

- ・現場の保育士をヒアリング対象者とするということについては、幅広く聞くという意味や保護者とながりを持っていることから現場の生の声を聞けることになると思う。
- ・野外保育についても説明資料にあった活動内容は、ほとんど保育所で実施する保育の中でやっていることだと思うが、これも現場の保育士にヒアリングすることで理解が進むと思う。

鷹取委員

- ・野外保育に関連して、自分たちで収穫して調理するといったことは、どこでもやっていることであり、それを鳥取の特色としてどのように打ち出すのかを園長に聞くのか、現場の保育士に聞くのかは、適当な者で良いと思う。
- ・若い保護者が子育てを楽しめない現状について、野外保育をすれば解消されるといった単純なものではないと思う。
- ・野外保育をどうしようかではなく、子どもがどのような状況におかれているか、保護者がどのような思いで、どのように育てたいと思っているか、なぜ、保育所を作っても、それが呼び水となり入所者が増え、待機児童は解消できないのかということを考えないと鳥取の保育を考えるということにならないと思う。

宮地委員

- ・野外保育について、森のようちえんへインタビューするにあたって、様々なタイプの森のようちえんに行く方が良いと思う。

南会長

- ・育児ストレスや虐待にも視野を広げた場合、保健所の保健師などの意見も重要となる。